

「情報リテラシー」と発信型の国語科学習システム

－「話し合いゲーム」を生かした思考力・判断力の育成（中学2年生）－

佐藤 洋一（愛知教育大学 国語教育講座）

川瀬 淳子（一宮市立今伊勢中学校教諭）

"The literacy of information" and the learning system for students to express their own ideas actively in the Japanese language class.

－ Developing the ability of thought and judgment using the talking games (Second-year students in junior high school) －

Yoichi SATO

Junko KAWASE

(Department of Japanese Languages, Aichi University of Education)

(Imaise Junior High School, Ichinomiya)

要約 グローバルな情報社会の中で、現代は「情報」が広く・速く・大量に伝達（発信）される場所に一つの大きな特質がある。こうした高速で膨大な「情報」世界は、子ども達の生活の細部にも浸透し、事項や行動・生き方等の判断に関わる部分でもさまざまな影響を与えている。しかし、こうしたメディアの高度な発達とは裏腹に、私達一人一人が考え判断し、理解するという思考と判断・認識に関わるスピードは依然として変わらないということが重要である。とりわけ、学校教育全体の基礎学力と「生きる力」育成の根幹に関わる国語科学習においては、このことの重要性は強調してもしすぎることはないと考えられる。

例えば、すらすらと教科書や新聞等の「情報」を音読できない子どもがそれ以上に速く、正確に黙読できないように、「話す・聞く」「読む」「書く」といった言語教育の基礎基本について、全員にわかる楽しい「学習システムの開発」が必要不可欠である。特に「受信」のみで終わることなく、論理的に個性的に「発信・交流」する過程で「受信」能力がより鍛えられ、豊かな「発信」と課題発見・解決の能力も育てられる。

本稿では、教科書・テレビ・写真・インターネット等のメディアを「情報理解・発信の一モデル」という「学び方」習得の概念からとらえ、それらを「正確に（論理的に）」読み取り「豊かに（個性的に）」発信する戦略（情報リテラシー）を国語科の発信型リテラシー（学び方）として位置づけ実践したものである。「情報」の理解から収集・選択判断・構成・発信評価・新たな課題の発見という一連の学習過程を、実践可能な学習過程論として組織することで（5段階の学習過程）、例えば「話す・聞く」と「読む」「書く」学習の関連が立体的に図られ、国語科固有の役割が鮮明になり、他教科との関連・「総合的な学習の時間」への生かし方等の視野もより見やすくなる等、従来までの教科の壁を越えられない読解・受け身・暗記中心の国語科学習を今日的な「生きる力」育成につながる学習として再構成することができると考える。

キーワード：情報リテラシー 発信型の国語科学習 話し合いゲーム 学習過程論

1 情報伝達の〈スピード〉と〈思考力・判断力〉

育成の課題－小学校高学年～中・高校生－

情報化社会の中で育つ子どもたちはマス・メディアやパソコンから関心のある情報を手に入れ、それらを楽しみながら生活している。携帯電話やインターネットを快適に使い、家に帰ってからの楽しみは遠く離れた地域や海外の友達からのメールを読むことという子どもも何人かいる。

また各教科の学習で調べたいことがあれば図書館へ向かうよりもまず家のコンピューターで情報を探す子どもが多いようである。当然、話題も豊富で気のきいた「おしゃべり」ができる子どもも少なくはない。

しかし、コンピューターの操作に慣れ情報量の多い子ども達ではあるが、学校行事等の公的な場で自信を持って自分の考えを述べられる子どもは少ない。「何をどうやって話せばいいのか分からないから、真面目に話をする場合は苦手」と敬遠する。またインターネットで興味深い資料を手に入れても、それを提示しただけの考察や判断のないレポートしか書けない子どもも多い。現代における「情報の収集・伝達のスピード」は驚異的であるが、その情報を正確に理解する・必要な情報を選んでまとめる・それをわかりやすく説明する力等は、国語科の重要な指導事項の1つとして、基礎基本から段階的に楽しい学習として指導する必要があると思われる。

2 「伝え合う力」育成の実践的な課題

－ 論理的な「読む」「書く」能力との関連 －

新学習指導要領「国語科」で強調された「伝え合う力を高める」言語能力の重視により、「伝え合う力」の育成は年間計画の中で工夫が行われてきた。

しかし実践は形骸化し、学校行事等の機会を生かすだけであったり、「話す」「聞く」際の態度指導に終わっていることも多い。また「伝え合う力」の重視の陰で「読むこと」「書くこと」の言語能力の育成、その基礎基本の定着等が曖昧になっていることも実践上の大きな課題である。

「伝え合う力」の育成においては、「話す・聞く」学習を論理的で個性的な「読む・書く」学習を立体的に関連させた基礎指導が不可欠である。考えを「伝え合う」時には、何を問題とし（課題発見意識）、どう判断し（情報の選択・判断等）、いかに個性的な主張を説得力を持って伝え学び合うか（情報発信の個性と交流・学び合い）が重要であるからである。

このような力を育成するためには、もちろん「読むこと」「書くこと」も従来通りではなく、指導事項の選択と焦点化や授業方法、その基礎基本の位置をとらえ直す必要がある。「読むこと」では文学・説明文教材だけではなく、図鑑や資料、グラフ等を「書く」「話す・聞く」も含めて「正確に（論理的に）」「豊かに（個性的に）」読ませる必要があるし、「書くこと」

の場合も生活作文中心ではなく、メモやノート・論理的で個性的な報告(レポート)の他、目的や場面に合ったプレゼンテーション(発表原稿・計画・個性化・質疑応答)の方法の指導等が求められている。

「『伝え合う力』は音声言語の学習だからスピーチ原稿等は書かせない方がよい」という意見も一部ではあるが、論理的で個性的な「書く」という「公的な認識形式の学習段階」を位置づけていない「伝え合う」学習は浅薄なものになる。「話す・聞く楽しさ」に慣れさせる段階を除けば中学生が切実な問題を語ろうとする時、メモや頭の中だけでの組み立てという「思考の暗算」だけで全員が個性的に語ることはほぼ不可能だからである。

3 「情報リテラシー能力」を育てる3つの視点

正確な受信を前提にした個性的な発信型の国語科学習システムの授業方法論を具体的に考える時、「情報」リテラシー(=学び方の戦略・方法論)の発想から教材をとらえると学習のポイント(評価基準)が焦点化でき、子ども達の実態に即した指導を行うことができる。教科書・テレビ・写真・インターネット等のメディアを「情報理解・発信の一モデル」という「学び方」習得の概念からとらえ、それらを「正確に(論理的に)」読み取り「豊かに(個性的に)」発信する戦略(情報リテラシー)を国語科の発信リテラシー(学び方・評価方法論)として位置づけるのである。

「情報」の理解から収集・選択判断・構成・発信評価・新たな課題の発見という一連の学習過程を、実践可能な学習過程論として組織することで、国語科固有の役割や他教科との関連・「総合的な学習の時間」へ

の生かし方等の視野が鮮明になる。従来までの読解・受け身・暗記中心の国語科学習を今日的な「生きる力」育成につながる学習として再構成するために、本稿では下の表のような学習過程を構想した(注1)。

また「情報リテラシー能力」を育てる3つの視点は次の通りである。

(1) 「学び方・評価」のモデルの明確化

限られた時間数の中で「発信型の基礎基本と個性化の方法」を指導するためには、目的に応じて教材や子ども達の報告・メディア等の「情報」を焦点化し、全員に基礎基本を身につけさせることを重視した段階的な学習過程(学び方のステップ)が必要である。

(2) 「基本学習」から「発信・交流」へのステップが必要

「基本学習」からいきなり「発信・交流学習」に展開するのではなく、1つのステップとして情報発信の立場からの「情報収集・判断・再構成」の学習(応用・個性化学習の段階)を設定することが全員子ども達に基礎基本の再確認と再構成、「発信」の立場からの主体的な情報収集・選択・判断・発信能力を教えるという点で重要である。

(3) 国語科固有の学習と他教科・総合的な学習への展望

国語科は思考と認識・発想等に関わる言語教育の基礎基本を担う根幹の教科である。そのため、基礎学力の保障と各ステップ毎の目標(学び方=言語能力)と評価・支援が鮮明で「総合的な学習」に効果的にリンクするような学習過程の構想をすることが、他教科や「総合的な学習」を支え、結果として今日的な課題である「生きる力」の育成につながると考えられる。

生きる力を育てる5段階の学習課程(注1)

— 「基本学習」「応用・個性化学習」の重視で〈学び方=言語技術〉を育てる —

学習ステップ	授業方法論の観点	「情報」リテラシーと言語技術
1 導入・基礎技術	(1) シンプルで楽しい工夫 (2) 目標と評価・方法の見通し	(1) 「話す・聞く／読む・書く」の基礎 (2) 「情報(課題)」の発見と言語化
2 基本学習 〔「学び方」の授業モデル化〕	(1) 「情報<理解・発信>の一モデルという教材観 (2) 「学び方」の焦点化	(1) 「情報」の正確な理解技術 (2) 説明文・文学・コミュニケーション論等のシンプルな「授業モデル」
3 応用・個性化学習 〔基礎基本～発信へのステップ〕	(1) 「情報」発信の立場から「基本学習」の再構成 (2) 豊かな「情報」活用技術	(1) 「基本学習」の応用・練習段階 (2) 「情報」の発見・収集・選択・構成 (3) 日常・経験の「再構成」と自己評価
4 発信・交流学習 〔情報発信と関わり合い・評価〕	(1) 1～3の段階の基礎基本が生きる「発信・交流」 (2) 評価の観点からの授業構想	(1) 「情報」の発信の基本と個性化 (2) プレゼンテーションの工夫と個性化 (3) 「情報」の豊かな理解と関わり合い
5 評価・一般化学習 〔「学び方」の評価～課題発見〕	(1) 評価は1～4まで各段階毎に行い、ここでまとめる (2) 学び方・内容等の課題発見	(1) 「情報」活用の自己評価能力 (2) 「学び方」の一般性と意欲 (3) 「情報(課題)」の発見と言語化

↓ ↓ ↓
「総合的な学習」・他教科・学校行事との関連／言語技術の応用発展・個性化再構成等

(資料1) 国語科学習指導案

「情報リテラシー」と発信型の国語科学習システム
 — 「話し合いゲーム」を生かした思考力・判断力の育成(中学2年生) —
 中学2年生学習指導案

指導者 川瀬淳子

1 指導目標

- (1) 日常生活の中から自分らしい論題を見つけさせる。(問題の発見)
- (2) 「はじめ」「なか」「まとめ」の3段階の構成(論理的な「報告・レポート」の基本構成)でそれぞれの項目の記述の仕方等に気を付けて、自分の考えをわかりやすくまとめさせる。
(「情報」の収集・選択・判断・構成)
- (3) 考えのまとめ方の基本を踏まえ、自分の考えをより鮮明に伝えるために基本的構成のバリエーションを工夫させる。
(「情報」の構成と応用・伝達の個性化)
- (4) 自分や友達の「話し合いゲーム」における意見のまとめ方や意見文に対して内容・話し方・聞き方の評価をさせる。
(「情報」活用の自己評価能力)

2 指導計画(10時間完了)

— 「話し合いゲーム」を生かした論理的で個性的な表現力育成のための5段階学習過程 —

時	主な学習内容	指導・支援と評価
1	1 季節を話題としたエッセイの学習の後6人の班で魅力を感じる「季節」を1つび意見をまとめる。	1 <支> ワークシートを使用し、魅力を感じる3つの理由とその季節に対する判断をまとめさせる。 <評> (1)グループで季節について楽しく話し合うことができる。 (2)判断を支える効果的な「具体例」を3つ選ぶことができる。(「基本学習」へのステップ)
2	2 選んだ「季節」に対する意見を発表し合い、感想を交流する。	2 <支> 意見発表や聞き方について「評価カード」で評価させながら意見を交流させる。 (1) 選んだ3つの理由がよく考えられたものであった。 (2) 3つの理由のまとめ方が良かった。 (3) 視線に気をつけて教室の広さに合った声で話すことができた。 (4) 決められた時間を守って話した。 (5) 話し合いをする友達を見ながら話を聞くことができた。 (6) 気付いたことはメモをとりながら聞くことができた。 <評> 「基本学習」(3段階のレポート型の意見のまとめ方の学習)や「評価学習」(発信・交流の基本と個性化の学習)へのステップとすることができる。
3	1 6人の班で論題を決め3人ずつに分かれて「話し合いゲーム」の準備をする。	3 <支> 以下のような自己評価の観点を示す。(次時以降のまとめについても同じ) (1)「わかったこと」…学習内容の正確な理解 (2)「自分で考えたこと」…課題発見のきっかけ、個性的な着眼点へのステップ
4	1 6人の班で論題を決め3人ずつに分かれて「話し合いゲーム」の準備をする。	1 <支> ワークシートを使用し「はじめ」「なか」(理由①②③)「まとめ」の3段階で意見をまとめさせる。 2 <支> 反論に備えて自分の立場の意義や個性(視点の新しさやすばらしさ)について考え、ワークシートにメモをさせる。 <評> それぞれの立場の意見を3段階のレポート型でまとめることができる。

交流・評価学習1	5	1 「話し合いゲーム」を評価し合う。	1 <支> 「評価カード」で「話し合いゲーム」の内容、話し方、聞き方について具体的な評価の観点を示し、それらを踏まえながら意見を交流させる。 <評> (「評価カード」より) (1)友達が興味を持つような論題を見つけることができた。 (2)選んだ3つの理由がよく考えられたものであった。 (3)3つの理由のまとめ方が良かった。 (4)話しているときの表情や視線、姿勢に気を付けて話すことができた。 (5)聞き手の反応を見ながら、声の大きさ、速さ、間の取り方抑揚を考えた。 (6)決められた時間を守って話した。 (7)説明をわかりやすくするための工夫をした。 (8)話し合いをする友達を見ながら話を聞くことができた。 (9)友達の意見の組み立て方やその説明の仕方について考えながら聞くことができた。 (10)気付いたことはメモをとりながら聞くことができた。
	6		
応用・個性化学習	7	1 「意見文」(論理的で個性的な文章)を書く。	1 <支> 「話し合いゲーム」の活動の中で身につけた3段階のレポート型の意見のまとめ方を生かしてワークシートに記述させる。
	8	2 自分の考えがより鮮明に伝わるよう文章構成のバリエーションを工夫する。	2 <支> 子どもの個性は、具体例の選択や例の説明の方法に表れる。個別指導では、一人一人の個性が引き出せるよう、関心の在りかをよく聞いたり、説明の方法を整理したりする。 3 <支> 個別に「なか」と「まとめ」との整合性を確認する。 4 <支> 構成のバリエーションに応じたワークシートを用意し、楽しく記述させる。 <評> 関心のある話題を選び、考えがより鮮明に伝わるよう文章構成のバリエーションを工夫しながら取り組むことができる。
交流・評価学習2	9		
	10	1 「意見文」を読み合い、意見を交流する。	1 <支> 「評価カード」を使用し、「意見文」の書き方について評価しながら意見を交流させる。 <評> (「意見文評価カード」より) (1)自分らしい論題を見つけることができた。 (2)判断を支える2つの理由が、よく考えられたものであった。 (3)判断と理由の関係が納得させられるものであった。 (4)題名を工夫することができた。 (5)判断を支える理由について説得力を持たせるための工夫をしながらわかりやすく書くことができた。 (6)構成に変化をつけたり書き出しを工夫したりして自分の考えがより鮮明に伝わるように工夫することができた。 (7)友達の意見文を文章の組み立て方やその説明の仕方に注意しながら読み、感想を書くことができた。 <評> 「意見文」の書き方やわかりやすい意見発表の仕方、発表者の個性について考えながら発表を聞くことができる。
まとめ	10	学習全体のまとめ・学習の一般化を行う。	<支> 学習を通して学んだことを明確にし、「伝え合う力」の基本から個性化への方法を一般化する。 <評> 学習を通して学んだことを、他教科や学校行事等に生かしていくとよいことを知らせる。

4 「情報リテラシー能力」を育てる授業実践例
 ー 「話し合いゲーム」の活動を〈理解・発信〉モデルとして活用する ー

「話し合いゲーム」の学習活動(注2)は論題を決め、2つの立場に分かれて意見をまとめ論じ合うというディベートの初歩的なものである。

この活動の、それぞれの立場から意見をまとめる学習は「情報リテラシー」の発想から、「情報」の収集・選択、判断・構成とその方法を楽しみ活動として学ぶという「基本学習」として焦点化することができる。この「基本学習」をもとに「情報」発信の基礎基本と個性化、交流、評価学習へと展開し、「情報リテラシー能力」を育てたい。特に、論理的で個性的な表現力の育成を目指して前頁の資料1のような実践を構想した。指導の主なポイントは次の3点である。

- (1)ディベートの初歩である「話し合いゲーム」の活動の中で「報告・レポート」の書き方につながる論理的で個性的な考えのまとめ方を具体的に指導する。
 (「情報」の収集・選択・判断・構成)
- (2)「話し合いゲーム」で身に付けた考えのまとめ方を生かし、「意見文」(論理的で個性的な文章)を書かせる。(「情報」の構成と応用・伝達の個性化・メタ評価能力(学び方の体得))
- (3)内容のまとめ方・話し方・聞き方の観点を示した「評価カード」を使用し、考えのまとめ方や「話す

こと」「聞くこと」の自己評価の方法を具体的に示す。
 (「情報」活用の自己評価能力)

5 指導の実際

(1)導入・基礎技術(「情報」の収集・基本学習へのステップ)

ー 魅力を感じる「季節」について考えをまとめる (第1, 2時) ー

畑山博「春のいぶき」の学習の後、「どんな季節に魅力を感じるか」について班で話し合わせ、魅力を感じる理由を3つ選ばせた。それらの3つの理由から、選んだ季節は「だれもが活動的になる季節である」等のように、どんな季節であるかを判断させ、ワークシートに記入させた上で発表させた(資料2)。この活動では取り組みやすい課題の中で、主張や提案のための効果的な「具体例」を絞って選択させることを目的に行った。

発表では、その季節にしか楽しめないスポーツや食べ物、ファッション、風景等が魅力を感じる理由として挙げられ、その上でそれぞれの季節に対して個性的な判断が行われるため、非常に楽しい発表となった。また「理由についてももう少し詳しく説明してください」「それは個人的な感覚ではないですか」等内容に対する質問や、「理由とまとめがつながっていません。矛盾しています」等、考えのまとめ方に対する意見が数

(資料2) 季節に対する意見交流のためのワークシート

○今日の学習から「わかったこと」「自分で考えたこと」を一つずつ書きましょう。

教室の広さも意識して話した班は聞きやすくてよかった。私も気をつけた。君の答えには爆笑。あの理由は君にしか選べないし、言い方も面白い。個性的でした。

聞き方	話し方	内容
⑥ 気が付いたことはメモをとりながら聞くことができました。	④ 決められた時間を守って話した。	① 選んだ三つの理由がよく考えられたものであった。
⑤ 話し合いをする友達を見ながら話を聞くことができました。	③ 視線に気をつけて教室の広さに合った声で話すことができました。	② 三つの理由のまとめ方がよかった。

メモ欄

冬のいいところ
雪
雪が短い。
お年玉↓大もうけ?
セーター

秋もいいと思いました
すずしい
焼くも
餅の長さやうぶじよい

ステップ②
班で考えた意見を発表しよう!

魅力だと思います。

このように「冬」は
楽しいことがいっぱいワンタフル
な季節なので

① 一つ目の理由は スキー、スノーボードができて温泉に入るといいです。

② 二つ目の理由は クリスマスがあって、イベントがあるからです。

③ 三つ目の理由は 年こしには紅白歌合戦があるからです。

話し合いゲーム

二年()組(名前)

ステップ①
それぞれの季節の魅力について考えよう!

春・夏・秋・冬…。どの季節に魅力を感じますか。その理由を考えてみましょう。

私たちの班は「冬」が魅力的な季節だと思います。



多く出され、活発な相互交流となった。

このように季節に対して楽しく話し合った後、意見を発表し合ったステップ（話題を提示した後、いくつかの理由〈具体例〉を選び、それらについて判断する過程）は論理的な「報告・レポート」の書き方につながる意見のまとめ方の基礎・基本であり、これまでに学習した説明文や論説文も、そのような形を踏まえて書かれていることを紹介した。

(2)基本学習（「情報」の選択・構成）

－「話し合いゲーム」のための準備

（第3、4時）－

季節に対する考えを発表した後、班で「給食か弁当か」のような2つの立場に分かれて話し合う論題を決め「話し合いゲーム」を行うことにした。

6人の班で論題を決めさせ、その後3人ずつに分かれてそれぞれの立場から考えをまとめさせた。考えのまとめ方は季節に対する考えをまとめた方法と同じ手順で、3つの理由（具体例）を選択させ、判断させるようにした。また季節に対する考えの発表では、選ばれた3つの理由に対して数多くの質問が出され、判断を支える具体例は詳しく説明した方がよいことを実感している。そのため今回の活動では3つの理由について2行程度の説明を加え、詳しく話すこととした。この活動によりそれぞれの立場の意見はワークシート（資料3）で支えし、3段階のレポート型でまとめられるようにした。

論題では「制服か私服か」「弁当か給食か」等、学校生活に関することや、漫画やテレビのキャラクターの持ち味、コンビニやハンバーガーショップの比較等、子どもたちの生活経験や関心の反映された楽しく話し合えるものが選ばれた。そのためどちらかの立場に立って意見をまとめる際には、一人一人の生活経験から意見を出し合うことができ、その子なりの視点や例の選び方や説明の仕方等、個性を楽しく発見し合う機会となった。

またこの活動では、3つの理由のうち、1つは本や雑誌、インターネット等から調べた事や、インタビュー・アンケート調査などの結果を入れることとし、自分たちの考えだけでなく具体的な数値等、客観的な資料を簡単に入れさせることにした。その際には〈資料の出典や調査対象等〉をはっきりさせることにし、〈どこのだれから・いつどんな文脈や背景から発信された情報を提示しているのか〉を紹介させるようにした。「情報」の発信の立場によって内容や解釈が異なるケースに出会う班もあり、「情報」が発信者の立場や観点・背景から選択・再構成・加工されていることを学ばせることができた。

発表し合う意見をまとめた後は、ゲームの反論に備えて「予想される質問とそれに対する答え」「相手に質問したいこと」「相手の主張を予想した反論」を考えさせ、自分たちのまとめた意見の意義や個性的な部分を明確に意識しながら発表に臨ませるようにした。

（資料3）「話し合いゲーム」準備のためのワークシート

話し合いゲーム
二年（ ）組 名前（ ）

1 ステップ③
班で論題を決め、意見をわかりやすくまとめよう！
論題を考えよう。

2 それぞれの立場の発表原稿を作りましょう。

こちらが マック 派です。 マック がよいと思っ理由を述べます。

一つ目の理由は 値段が安いことです。

（説明）他のハンバーガーショップよりも安く、半額に
なるものもあります。

二つ目の理由は、期間限定のメニューがあることです。

（説明）おいしくて季節に合ったメニューが、次々と出てくるので楽しみがあります。

三つ目の理由は、クラスでアンケート調査したところ、マックは大人気です！

（説明）クラスで男子15人、女子15人にアンケートをしたところ、後（男子は13人、女子は11人がハンバーガーショップの中で、マックが一番好きと答えました。

このように マック は

中学生に人気があり、値段も手頃でメニューも楽しいです。

モス よりよいと思えます。

○今日の学習から「わかったこと」「自分で考えたこと」を一つずつ書きましょう。

モスもマックだけでなく、派を考えたので調べたりしたらいいところばかりわかった。しかも「マック」と呼んでも理由が言えなまわくも考えないと思いました。しかり準備したから冷静にガバにマック!!

1 予想される質問とそれに対する答え

(1) ミニス緑茶について

○モスはどのように使われる？

(2) ミニスは変化はあかしくない？

止まらずと意識という。

(3) 素材がよくない。

よ、不衛生な物は相対する方針

2 相手に質問したいこと

(1) モスはおいしい素材にこだわります。（私も使ってます）

時間や値段にこだわらないものどうしようか。

3 相手の主張を予想した反論

(1) マックはモスに比べて素材がよくないからいいけど、季節に合った厳選素材を添加物も少ないモスも、調理管理もより

(2) 日本のハンバが上り上げは60%がマックの人気のこと

調べたところ
ネット Web Page
McDonald's Japan
http://www.mcdonalds.co.jp/

(3)交流・評価学習1

(「情報」伝達と自己評価能力)

一 「話し合いゲーム」(第5, 6時) 一

それぞれの立場から意見をまとめた後, ワークシート(本稿では省略)で「話し合いのゲーム」の流れを示し, 楽しくゲームに取り組みさせた。

今回の活動ではそれぞれの立場の意見が3段階のレポート型でまとめられるようにし, “説得力のある意見発表の大切さ”に重点をおいたが, 反論もそれぞれの立場の主張の個性を鮮明にしながらか積極的に行うことができ, 聞き手にとっても楽しいものとなった。

また発表では「評価カード」(資料4)を用い, 「話し合いゲーム」の様子について内容・話し方・聞き方の3つの観点から評価をさせた。

内容・話し方の観点は「話し合いゲーム」の準備にあたり, ワークシートを用いてこれまでの学習過程で身につけてきた観点である。これらの観点から評価したり意見を交流し合ったりすることにより, 3段階レポート型の意見のまとめ方・話し方・聞き方の基礎・基本を無理なく意識することができ, それらを踏まえながらゲームの判定をしたりすることができた。

(4)応用・個性化学習

(「情報」の構成・伝達の個性化)

一 「話し合いゲーム」で身に付けた考えのまとめ方を生かして「意見文」を書く(第7~9時) 一

(資料4)「話し合いゲーム評価カード」

「話し合いゲーム」の後, ゲーム形式の学習経験から身につけた3段階レポート型の意見のまとめ方を生かして「意見文」(論理的で個性的な文章)を書かせることにした。ここでは「はじめ」「なか」(2~3つの具体例)「まとめ」の基本形で下書きを書かせ, 清書の段階で「なか」「はじめ」「なか」「まとめ」や「まとめ」「はじめ」「なか」「まとめ」等, 構成のバリエーションを考えさせながら記述させた。「はじめ」「なか」「まとめ」のそれぞれにおいて注意するとよい点は, 資料5のワークシートのように原稿の上段に示し, 大切な観点について自分で評価しながら書き進められるようにした。

自分の意見がより鮮明に伝わるよう「構成(内容の組み立て)」のバリエーションを工夫し, 絵や図写真を取り入れながら楽しく取り組むことができた。子ども達が考えた文章構成のバリエーションは次の通りである(この実態と意味についての詳細は省略)。

- ①「まとめ」「はじめ」「なか」「まとめ」
自分の結論を強調しそこから始める形 ……49%
- ②「なか」「はじめ」「なか」「まとめ」
選んだ具体例を強調しそれから書き始める形 ……31%
- ③「はじめ」「まとめ」「なか」「まとめ」
話題提示の後, 結論を述べてから具体例を述べる形 ……9%

話し合いゲーム

評価カード

二年()組 名前()

1 次に行う項目は、わかりやすく話し合いをするための大切なポイントです。
自分の話し合いの内容、話し方、そして聞き方はどうでしょう。
また、友達の話し合いもこれらの観点から聞き、気付いたことをメモしましょう。

聞き方			話し方				内容		
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
⑩ 気付いたことはメモをとりながら聞くことができました。	⑨ 友達の意見の組み立て方やその説明の仕方について考えながら聞くことができた。	⑧ 話し合いをする友達を見ながら話を聞くことができた。	⑦ 説明をわかりやすくするための工夫をした。(絵や図、動作等)	⑥ 決められた時間を守って話した。(主張二分・反論一分以内)	⑤ 聞き手の反応を見ながら、声の大きさ、速さ、間の取り方、抑揚を考えた。	④ 聞き手の反応を見ながら、声の大きさ、速さ、間の取り方、抑揚を考えた。	③ 話しているときの表情や視線、姿勢に気をつけて話すことができた。	② 三つの理由のまとめ方がよかった。	① 選んだ三つの理由がよく考えられたものであった。
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
<p>メモ欄 好き、愛情、おいしい 女子、着、バラエ おじい、カラオケ 和食、まとめがうま かんづめ、おしる えんどう あさり、種類が多い マク よし、安いおいしい モス、材量種類 温かい</p>									

2 各級の発表に対する質問や意見を書きましょう。
判定の欄には勝ちだと思ふ派のキーワードを書きましょう(例: 弁当)

5 班	3 班	1 班	6 班	4 班	2 班
両派ともいい派は、やっぱり、判定のときに、みんなが手をあげていたなあと思いました。あんまり質問することが考えられませんでした。	和食派のまとめ方が、うまいと思えました。	自分の発表するところが、みんなと云えました。	モス派は、反論のうけ答えが、みんなできてたのいいと思えました。	ビデオ派の方が、まとめ方が上手だと思えました。映画派判	三つの理由が、ちゃんといえていた。
判定	判定	判定	判定	判定	判定
ゼー	和食	判定	モス	ビデオ	弁当

○今日の学習から「わかったこと」「自分で考えたこと」を一つずつ書きましょう。

(資料5) 「話し合いゲーム」準備のためのワークシート

1 自分の意見をわかりやすく伝えるためには「なか」(理由①②)の詳しさと、「なか」と「まごめ」のつながりが大切だ。「まごめ」の意味(自分はなぜそう判断したのか)を意識しながら「なか」を詳しく工夫して書きましよう。

名	理由①	はじめ	続き	理由②	な	まごめ
注意事項	※自分がなぜ「まごめ」のように判断したのかその理由を詳しく説明しよう。	※意見を述べようとする話題について手短かに説明する。	意見をわかりやすく伝えるための絵や図・写真等	※本やアンケート調査等からわかった具体的な数字や名前はほとんど入れましよう。 ※読み手を引きつけるクイズ形式で書き進めるのもいいね。	※判断と理由の関係をはっきりさせる。(このようにくはくはなのです。)	
原稿	「映画とビデオの満足度」 のちがいは、「例」や「ぱり家が一番」					



2 意見文を書き上げた感想や、楽しくわかりやすく書き上げるために工夫したこと等を書きましよう。
理由も納得してもらえようように書くのが大変だった。

○今日の学習から「わかったこと」「自分で考えたこと」を一つずつ書きましよう。
意見文を自分一人だけで書くのは意外と難しかったけど、書き方がよくわかった。自分と反対の意見になって考えたら、意外といいなあと思っ理由があった。

(資料6) 「話し合いゲーム」準備のためのワークシート

話し合いゲーム
意見文評価カード
二年(組名前)

1 書き上げた意見文を次に挙げる項目から評価してましよう。
内容・書き方、そして読み方はどうでましよう。◎ ○ をつけて考えてましよう。
また、お互いの意見文もこれらの観点から読んだり聞いたりし、気付いたことを話し合いましよう。

要方	書き方	内容
⑦	⑥	①
友達の意見文を文章の組み立て方やその説明の仕方に注意しながら読み、感想を書きことができた。	構成に變化をつけたり書き出しを工夫したりして自分の考えがより鮮明に伝わるように工夫することができた。	自分らしい論題を見つけることができた。
	⑤	②
	判断を支える二つの理由について説得力を持たせるための工夫(あるエピソードについて詳しく書く・本や雑誌から調べたことを書く・アンケート調査結果を入れる等)をしながらかかりやすく書くことができた。	判断を支える二つの理由がよく考えられたものであった。
	④	③
	題名を工夫することができた。	判断と理由の関係が納得させられるものであった。
	③	④
	自分の意見文に対する友達からの一言感想	

3 代表者の発表から二人の意見文を選び、意見や感想を書きましよう。

○今日の学習から「わかったこと」「自分で考えたこと」を一つずつ書きましよう。
いろんなコメントも比べたいけれど、そのコメントの面白いところも悪いところも、メモリして聞いて、なかなの内容はとも大切だと感じた。

④「はじめ」の工夫

「はじめ」「なか」「まとめ」の基本の形であっても、アンケート調査の結果分析から始めたりすると読み手を引きつけられることに気づき、話題提示を工夫する形 …11%

子どもたちは主張を印象づけるために、具体例や判断の部分の構成を自分なりに工夫し、「はじめ」「まとめ」「なか」「まとめ」等の構成も可能であることや、「はじめ」「なか」「まとめ」の基本の形であっても、アンケート調査の結果分析から始めたりすると読み手を引きつけられること等に気づき、楽しみながら取り組むことができたようである。

(5)評価・交流学习2

〔「情報」活用の基本と応用の評価〕

一 意見文を読み合う (第10時) 一

意見文を書き上げた後、班で「意見文評価カード」(前頁の資料6)を用いながら読み合いをし、相互に評価をさせた。「評価カード」では内容・書き方・読み方について評価させ、一言ずつ感想も書かせて交流させた。その後、班より代表者を選んで発表させ、その意見文に対する感想もまとめさせた。代表者は写真や絵、実物を効果的に使いながら自信を持って話すことができ、聞き手からは「意見をわかりやすく伝える工夫がよくできている」「選んだ話題も具体例も個性的でその子らしい」等という評価を受けていた。

5 考察

一 情報リテラシー・コミュニケーション能力 一

本実践では、「情報リテラシー能力」を育てるといふ観点から楽しい「話し合いゲーム」の学習活動を活用し、「レポート」「報告」の書き方につながる論理的で個性的な意見のまとめ方を焦点化して指導した。またそれを生かして「意見文」の記述・発表(応用・個性化学習)を行わせ、「情報」の「発信・交流」学習を展開した。

実践の成果の要点を、以下4点にまとめる。

- (1)「情報リテラシー」の発想から学習内容を焦点化し、各学習過程の評価項目を明確にした「段階的な学習過程(注1, 資料1)」によって指導を行ったことにより、「報告・レポート」の書き方につながる論理的で個性的な意見のまとめ方を、全員に無理なく身につけさせることができた。
- (2)「学び方」を焦点化した「基本学習」で身につけた「情報」の「収集・選択・判断・構成」の方法を生かし、「応用・個性化学習」として「意見文」を書いたことにより、「基本学習」で学んだ基礎基本の再確認と再構成をすることができた。

また、文章構成のバリエーション(基本から応用、個性化へ)を考える段階でも基本を踏まえて、子ども達は熱心に工夫をすることができ、個性的に説得力を

工夫して「発信」することができるようになった。

(3)考えのまとめ方や話し方・聞き方の観点という“情報理解から収集・選択判断・構成発信”の評価基準、コミュニケーション能力の〈学び方〉と生かし方をワークシートで具体的に示して支援し、それらを踏まえて意見交流をさせた。このため、他教科等の活動にも転移する「発信・交流」のための基本と応用の自己評価能力を身につけさせることができた。

(4)意見を出し合ったり、「評価カード」を用いて「情報」伝達の個性やその選択・判断の理解について話し合う中で、自分や友達の個性がどの部分に現れているのかという「情報リテラシー」とコミュニケーション能力の基礎基本と個性化の方法について楽しく発見することができた。

人前で話すことが苦手な子どもが多いのが現状であるが、今回の実践を通して論理的で個性的な意見のまとめ方がわかり、自信を持って話すことができたようである。

また、発表や話すことが「得意」と見られている子どもの中にも元気の良さや話し方(音声化レベル)が評価されているだけの場合もあり、授業の感想の中には「話すことはうまい方だと思っていたが、自分の話はアドリブが多く論理的でないことがよくわかった」「一人一人の話は個性的で迫力があり、自信を持っている自分の話はどうかと焦りを感じた」等という意見もあった。

本実践では、正確な受信を前提にした個性的な発信型の学習システムの中で、「段階的な学習過程(5段階)」により「発信型の基礎基本と個性化の方法」を無理なく身につけさせることができたと思われる。

また、「情報リテラシー」の発想から明確になる「発信型の基礎基本と個性化」の評価の観点を「評価カード」に示したことにより、お互いの個性がどの部分に表れているかを楽しく発見させることができたと考えられる。

一人一人の個性は気のきいた一言や話し方にのみ表れるのではなく、どんな具体例を選び、それらをどのように詳しく語り結論付けるかという「情報」の選択・判断にこそ表れる(情報リテラシーとコミュニケーション能力の大切さ・国語科学習の意味)ということを確認に実感させることができたようである。

6 おわりに

現代の子ども達に求められる新しい言語能力育成のために、「基礎基本の定着」「個性の伸長」とともに多様な教材開発や授業のアイデア等の実践的提案が行われている。メディア・リテラシーやジェンダー教育、プレゼンテーション能力や研究レポートの作成、古典学習の方法論等である。

こうした提案を具体的に生かせるような「段階的な

学習ステップ（学習過程論）＝学び方を身につけさせる戦略の枠組み」の原理を構想し、焦点化した授業や構造的なカリキュラムを作っていくことが今日的な意味での「生きる力」育成につながると思われる。

これは「絶対評価」の導入による評価観＝授業観の転換という緊急の、実践的な課題について考える時にも不可欠の視点である。本稿でのささやかな実践の提案は「絶対評価」に対応した授業を創る時にも生きるものとして構想したものである。

様々な「教材」を「情報理解・発信の1モデル」という「学び方」習得の概念からとらえ、「情報リテラシー」「国語科の発信型のリテラシー」として位置づけ開発することにより、現代の子ども達に必要な「生きる力」、すなわち論理的で個性的な思考力や判断力、その評価能力（情報リテラシーとコミュニケーション能力）を育てていくことが必要である。

〈付記〉

本稿は、川瀬による愛知国語教育研究会での研究発表（平成13年8月20日、於名古屋市教育館）をもとに大幅に補筆・修正したものである。紙面の制約上、子ども達の「意見文（論理的で個性的な報告・レポート）」の内容、作成したワークシート活用の成果と効果等についての詳細は省略したことをお断りする。

〈注記〉

1 佐藤洋一「〈段階〉を踏まえた授業構想―「情報」リテラシーと発信型の学習過程― [連載／総合的学習を支える国語科の基礎・基本、第4回]」（『教育科学国語教育 平成13年7月号』明治図書）。

佐藤洋一「国語科で磨く課題探究活動の力と総合的学習」（『講座／国語科から発展する総合的学習の学力 第2巻（高階玲治編）』明治図書、平成13年9月）等を参照。

2 平成11年度版 国語教科書『新編 新しい国語2・中学2年』（東京書籍）所収の「単元 意見を述べる」の中の「話し合いゲーム」を指導目的に即して活用した。

〈主な参考文献〉

- 1 佐藤洋一「『読み・書き』の言語技術、その基礎基本の重要性」（『言語技術教育 第10号』日本言語技術教育学会編、明治図書、平成13年3月）
- 2 佐藤洋一「発信型の国語科学習システムの開発を―国語教育と『総合的な学習の時間』の現状・課題・展望―」（『日本語学 平成13年10月号』明治書院）
- 3 佐藤洋一編著『国語科を核に総合的学習を創る』（明治図書平成12年4月）
- 4 川瀬淳子「中学生の『伝え合う力』を育てる―

『生きる力』とスピーチ学習―」（『実践国語研究平成13年12-1月号』明治図書）

- 5 川瀬淳子「日本語の“豊かさ”と“構造”入門―外来語成立のナゾを探る／説明文「外来語と日本文化（小六）を例に―」（3の文献に所収）
- 6 佐藤洋一・川瀬淳子「『情報』理解から表現への基本指導―説明文「暮らしの中のまるい形」（東書）を例に―」（『愛知教育大学教育実践総合センター紀要 第2号』愛知教育大学、平成11年3月）
- 7 佐藤洋一・左近妙子「『伝え合う力』を育てる発信型の国語科学習―“ジェンダー”と自分らしい生き方（中学校3年生における実践）―」（『愛知教育大学教育実践総合センター紀要 第4号』愛知教育大学、平成13年3月）
- 8 佐藤洋一・鈴木悟志「実践・文学を〈情報〉としてとらえる発信型の国語科学習―小説教材「父の列車」（中1）の基本学習から情報の発信（絵本のブックトーク）へ―」（『愛知教育大学研究報告第50輯（教育科学編）』愛知教育大学、平成13年3月）